日本統合医療学会 会報
# IMJニュース
No.47
2025年9月29日発行

編集・発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL：http://imj.or.jp/
〒 170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　駒込TSビル　一般財団法人口腔保健協会内
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail：imj@imj.or.jp　TEL：03-3947-8891

巻頭言

## 第29回日本統合医療学会学術大会に寄せて
## ―皆で共有しよう，統合医療の奇知・叡智―

上野　富雄　川崎医科大学消化器外科主任教授
第29回日本統合医療学会学術集会大会長

縁あって，私は2016年９月に山口から岡山へと居を移しました。現在，川崎医科大学で学生に消化器外科学を教える傍ら，附属病院では消化器外科の主任診療部長として，主に肝胆膵領域のがん治療に携わっております。また，消化管再生医療に関する研究にも取り組んでおり，日々，科学的根拠に基づいた最善の医療を提供すべく努力を重ねています。

その一方で，山口時代の約30年間，故・柴田眼治先生（第19回日本統合医療学会学術大会大会長）から，統合医療，特にスピリチュアルな分野について多くのご指導をいただきました。その教えは，私の医療観に深く根ざしていると思います。岡山に移って以降，柴田先生のお声掛けをきっかけに，日本統合医療学会岡山支部の設立に携わり，多くの方々の支えを得ながら活動を続けてまいりました。第29回大会の大会長を拝命することになったのも，この岡山県支部および地域連携団体「岡山統合医療の会」の地道な取り組みをご評価いただいた結果ではないかと受け止めております。

柴田先生がスピリチュアリティに強い関心をお持ちであったように，私自身も父の死を契機に仏教に興味を持ち，中央仏教学院で宗教哲学を学ぶ機会に恵まれました。さらに，自らがんを経験したこともあり，「人生とは何か」「人はどのように生き，逝くのか」といった根源的な問いを抱えながら，日々の診療に向き合っております。

私の専門とするがん治療では，手術，薬物療法，放射線治療，免疫チェックポイント阻害薬などの「集学的治療」が標準となっています。これらは科学的根拠（エビデンス）に基づいた有効な治療ですが，患者の痛み，不安，孤独感といった“こころ”の問題にまで十分に応えることは困難です。そこで必要となるのが，全人的医療としての統合医療であり，患者のQOL（生活の質）向上に寄与する柔軟な医療の姿勢です。

この文章をお読みくださっている皆様は，すでに統合医療に理解のある方ばかりと思いますが，世間一般ではその言葉自体に馴染みのない方が多いのが現実です。そこで今回の大会では，「まずは会場に来て，統合医療を“感じて”みてほしい」という想いから，より多くの方に参加を呼びかけています。その際は，「例えば，被災地で自衛隊の音楽隊が奏でる音楽，提供されるお風呂，理髪師による散髪などが人々の心を癒すという話をよくニュースで耳にしますよね。これらは音楽療法，温浴療法，化粧療法といった統合医療の一例なんですよ」とか「薬を使わずに，人にプラスの効果をもたらすのが統合医療なんですよ」と説明すると，皆，「そうなんですね」と頷いてくれます。

統合医療には，人が直感的に「良い」と感じられる要素が数多く含まれており，それが人間の生き方や在り方と深く関わっているという点で，大きな可能性を秘めています。その魅力と意義を一人でも多くの方に知っていただきたく，大会テーマを「皆で共有しよう，統合医療の奇知・叡智」といたしました。すでに実践されている方はもちろん，関心を持ち始めたばかりの方にも，専門領域を超えて知恵と経験を持ち寄り，新たな視点と気づきを得ていただければと願っております。

本大会では，漢方，プラセンタ療法，不妊治療，スピリチュアルケア，ホメオパシー，整体，カイロプラクティック，予防医療，音楽・芸術・化粧療

法，アロマ療法，アニマルセラピー，鍼灸，ヨーガ，アーユルヴェーダ，エネルギー療法など，多岐にわたる分野の講演，シンポジウム，ワークショップを企画しております。

年末のご多忙な折ではございますが，ぜひ岡山にお越しいただき，「統合医療の奇知・叡智」をともに学び，共有できるひとときを過ごせますことを，心より楽しみにしております。

最後に，この度はこのような執筆の機会をいただき，関係者の皆様方に心より御礼を申し上げます。

Topics トピックス

## 第29回岡山大会の大会長が語る 学会プログラムの全体像

上野　富雄
川崎医科大学消化器外科主任教授
第29回日本統合医療学会学術集会大会長

本ニューズレターでは，岡山大会を大きく取り上げていただけるとのことで，不確定な部分も残る中ではありますが，現時点での企画内容についてご報告を申し上げます。このような貴重な機会をいただきました編集委員の先生方に，心より御礼申し上げます。

今大会のテーマは**「皆で共有しよう　統合医療の奇知・叡智」**といたしましたが，川嶋みどり先生とのメールのやり取りの中で，この言葉は，先生から「専門領域を超えた知恵と経験を持ち寄り，新たな視点と気づきを得る大会」との表現をいただき，本紙面ではそれをそのままお借りすることにいたしました。本大会がまさにそのような交流と学びの場となることを心より願っております。

本大会のプログラムは，地元の「日本統合医療学会岡山県支部」および「岡山統合医療の会」が中心となって企画したものと，本部主導の企画との二本立てで構成されています。

岡山が企画したプログラムの中で，私自身が強い思い入れを持っているのは**「西本願寺医師の会」との共催セミナー「スピリチュアルケアを考える」**および**シンポジウム「“死”を語る，“生”を問う」**です。外科病棟での日々の診療を通じて，スピリチュアルケアや死生観について考える機会が多く「今回の大会でも学びを深めたい」と最も注目している企画です。

**共催セミナー「スピリチュアルケアを考える」**は西本願寺医師の会の世話人である月江教昭先生にプログラム委員をお願い致しました。過去の大会においても，スピリチュアリティに関するセッションは常に盛況で，多くの方が関心をお持ちであると思います。

岡山のプログラム委員の先生方は多彩な顔ぶれで，この他にもさまざまな視点からユニークかつ魅力的な企画を多数ご提案いただいております。その中でも想定外の企画が**ワークショップ「少子化対策なる? 女性への統合医療のススメ」**です。この企画は川崎医科大学産婦人科学教室の太田邦明先生の発案によるもので，不妊治療が保険適用となる前から，不妊治療には統合医療的な奇知・叡智が必要とされていたこと，そして保険適用後はより一層統合医療との関係性が深まっているというお話をうかがい，私自身，目から鱗が落ちる思いでした。

他にも，**「スポーツと統合医療」「整体とカイロプラクティック」「プラセンタ医療と統合医療」**など，これまであまり取り上げられてこなかった分野にも焦点を当てています。また，**シンポジウム「“未病”を制する：統合医療の知と技」**では予防医療の，そして**ワークショップ「癒しの統合医療」**では音楽療法，美術療法，化粧療法，アロマ療法，アニマルテラピーの専門家にそれぞれご登壇をいただきます。さらには日本医師会常任理事であり，岡山で統合医療立ち上げ当初からの同志でもある江澤和彦先生にプログラム委員をお務めいただく**シンポジウム「地域包括ケアと統合医療の未来ー医療・行政・現場の視点から」**といった企画も，大変意義深い企画として準備を進めております。そして，業務執行理事の吉田紀子先生からは**ワークショップ「各支部からの推奨演題」**についてはお褒めの言葉をいただきました。「こうした取り組みを待っていた」とのこと，たいへん励みになりました。

さらに**シンポジウム「医師・歯科医師・認定施設が行っている統合医療」**は，認定資格を持つ先生方が実際にどのように統合医療を実践し，広めているかを知る貴重な機会になると考えております。このセッションの前には，**「シンクタンクが考える自由診療の有り方（仮）」**と題し，副大会長・大谷公彦先生のご尽力により，Medical Excellence JAPAN（MEJ）理事長の澁谷健司先生に基調講演をお願いしております。どうぞお聴き逃しなくご参加ください。

その他の基調講演，特別講演，教育講演などにおきましても，岡山のプログラム委員が会員の皆さまと共有したく，依頼をさせていただいたものがほとんどでございます。時間の許す限り，聴講していただき，「専門領域を超えた知恵と経験を持ち寄り，新たな視点と気づきを得る大会」にしていただけますと幸いです。

さて，大会運営には一定の協賛金が必要ですが，統合医療という分野の特性上，従来の製薬会社や医療機器メーカーからの協賛を得ることが難しいのが現実です。今回は約50社のMRの方々と直接面談し，協賛のお願いをしてきましたが，「統合医療」という言葉さえ知らない方も少なくありませんでした。「これではいけない」と感じ，協賛のお願い以上に「ぜひ本大会に足を運び，統合医療を知ってほしい」という思いを伝えるようになりました。そうした中，いろいろと素案のプログラムも紹介させていただきましたが，最も関心を集めたのが**ディベート「温泉療法 vs. サウナ」**でした。登壇予定の一石英一郎先生は『医者が教える最強の温泉習慣』の著者であり，とちぎ温泉健康大使でもいらっしゃいます。メールでは「温泉とサウナ，どちらも好きなのでディベートになるかどうか……」とのコメントもいただいており，当日が楽しみなセッションの一つです。

伝統医療の中心とも言える「漢方」については，当初，漢

方製薬企業との交渉が難航し，「統合医療学会で漢方企画ができないのでは」と危ぶまれる場面もありました。そんな中，私が統合医療に関心を持つきっかけをくださった故・柴田眼治先生（第19回山口大会大会長）のご子息である『社団水生会』理事長・柴田三大様が，スポンサーに名乗りを上げてくださいました。そのご厚意に深く感謝し，第1日目第1会場の**ランチョンセミナーを「故・柴田眼治プレゼンツ 水生会ランチョンセミナー」とし，「漢方とセルフメディケーション―素人でもわかる漢方医学の考え方（仮）」**を企画することが叶いました。

また，本大会では理事会の了承を得て，第9回岡山支部学術講演会を同時開催いたします。同講演会の演者には，高野山真言宗飛騨千光寺の住職・大下大圓先生に来岡していただきます。会員の皆さまと「岡山統合医療の会」の会員の皆さまに聴講いただけます。大下大圓先生は臨床瞑想法の提唱者で，医療・教育現場で心のケアに尽力し，スピリチュアルケアの普及にも貢献されています。

一方，**市民公開講座**は，本大会では2題用意いたしました。1題目は医師・作家として終末期医療や死生観をテーマに執筆し続ける久坂部羊先生です。直近の2025年7月の『週刊現代』では，社会学者・橋爪大三郎氏との**「宗教は死にゆく人を救えるか」**と題する対談を通じて，宗教と医療の役割を問い直されていますが，そのようなご講演を拝聴できるものと楽しみにしております。2題目は以下にも記載させていただいた大原芸術財団の大原あかね代表理事にお願いしております。

番外編となりますが，今回は2つのエクスカーションも準備しております。1つ目は**「津山の伝統医療を巡る」**で，津山市医師会長でもある大谷先生の企画です。「津山洋学資料館」には館長曰く，「書物ですから世界に一つというわけではありませんが」という本物の『解体新書』が常設展示されており，この機会に見ることができます。詳細は以下URLをご参考にしてください（https://www.tsuyama-yougaku.jp/untitled13.html）（写真1参照）。

2つ目は，学会翌日の12月22日（月）に開催予定の**「大原美術館フレイルプログラム『美術館で健康増進!』体験レポート」**です。月曜日は美術館がお休みのところが多いですが，大原芸術財団の大原あかね代表理事，自らのご提案で，日本統合医療学会会員のため，その休館日を利用して，世界的な絵画コレクションを誇る『大原美術館』を貸し切りにして，本プログラムが体験できるといったエクスカーションを企画していただきました。美術館や倉敷美観地区を「歩く」ことそのものがフレイル予防になるという，統合医療らしいユニークな企画となっています。**両企画とも先着順での受付とする予定ですので，ぜひ大会ホームページ（https://kwcs.jp/imj2025/）をこまめにご確認ください。なお，直近のプログラムは以下URLでご確認いただけます（https://kwcs.jp/imj2025/prog.html）。**

そして最後にご紹介するのが，**名誉大会長企画「仁田新一先生を偲んで」**です。大会第1日目の11時から，名誉大会長の伊藤壽記代表理事の司会のもと，川嶋みどり先生をはじめ，東日本大震災で仁田先生と支援活動をご一緒された佐藤美弥子先生，東北大学同門の関隆志先生にご登壇いただき，仁田先生のご功績と人柄を語っていただきます。統合医療の歩みを振り返る，心に残る時間になることと思います。

以上，岡山企画のプログラムを中心にご紹介させていただきましたが，本部企画にも非常に魅力的な内容が揃っており，誌面の関係上，すべてをご紹介できないのが残念でなりません。岡山の12月は，比較的降雪が少なく，晴天の日が多いため，「晴れの国」の名にふさわしい青空が広がります。ただし朝晩の冷え込みは厳しく，平均気温は6～9℃程度となりますので，防寒対策はぜひしっかりとご準備ください。日本三名園の一つ・岡山後楽園では，冬の静けさとともに，『こも巻き』された松や枯山水の趣を味わうことができ，穏やかな時間を過ごせます。また，表町商店街や岡山駅周辺では冬のイルミネーションが街を彩り，温かな光に包まれる散策も楽しめます。岡山は瀬戸内海と中国山地の自然に恵まれ，海の幸・山の幸・里の幸が豊富な食の宝庫です。冬の岡山では，旬を迎える食材が多く，温かい料理で心も体もほっとする味覚を楽しめます。牡蠣は広島だけではありません。日生（ひ

津山洋学資料館展示室【3】
日本の近代化と津山の洋学者－開国からやがて明治維新へ－

展示室【3】では日本の近代化に貢献した津山の洋学者たちに迫ります。

写真1（写真と説明は津山洋学資料館のホームページより）

津山洋学資料館復元展示室
ある医家の調合の間

幕末から明治期の美作地域にある医家の調合の間（診察や薬の調合を行う部屋）を再現しています。

なせ）港をはじめとする瀬戸内沿岸で水揚げされた新鮮な牡蠣を使ったご当地グルメ「カキオコ（牡蠣入りお好み焼き）」はぜひ一度味わっていただきたい冬の名物です。

どうぞ学会参加と併せて，岡山の自然・文化・味覚を心ゆくまでお楽しみいただければ幸いです。皆さまと岡山の地でお会いできますことを心待ちにしております。

写真２　岡山後楽園

写真３　ご当地グルメ「カキオコ（牡蠣入りお好み焼き）」

## 書評

**伊藤壽記著**
**『自然治癒力を引き出す－老化も病も予防できる』**
（幻冬舎刊，2025年7月）

評者・
｜川嶋　みどり｜

高度医療技術の普及に伴い，これまでは助からなかった疾患からの救命も可能になった反面，何らかの疾患を持ちつつ加齢を重ねる高齢者が増えている。従って，超高齢社会を迎えた日本社会の最大の課題は健康寿命の延伸であるとされている。一方，大型化する自然災害の増加やパンデミックを経験し，現行の医療制度の枠組みの脆さも体験しつつ，人々の健康への関心はかつてなく高まっている。

そうした中，膵臓移植という現代医療の最先端領域で，研究・臨床の道を歩まれてきた著者が，全人的統合医療に注目し生活習慣由来の諸疾患をはじめ，身体の不調をきたす病態に対して，治療ではなく，個体の自然治癒力を強めてそれらを制御する方法を，詳細に，しかも分かりやすく述べられこのほど上梓された。著者はまた，国の「統合医療の在り方に関する検討会」－2014の主要メンバーでもあり，2018年から日本統合医療医学会代表として医療，保健，福祉の三位一体の体制で統合された包括的ケアシステム構築に向けて，学会の運営ならびに，学術・実践・教育面でリーダーシップを発揮されている。

目次を参照しただけでも，現代人にとって最大の関心事とも言うべき「かかりたくない病気や状態」の予防策をはじめ，健康長寿に生きる秘訣が網羅されている。統合医療の基本的コンセプト，すなわち全人的，自然治癒力，予防に関して，最新の医学的知識で裏付けられた日常ケアの方法は，何れも，これまで経験知に頼りがちであったセルフケアを，「何故」「どうして」を明らかにしながら動機づける上で極めて有用である。また，各章には，ヒトから人間への進化の過程で生まれた人体の仕組みの二面性（光と影）をふまえた展開がされていて実に興味深い。あとがきの「とどまるところを知らないAIの進歩があっても，人間もまた進化を続ける存在であり，自ら心身管理とメンテナンスを行うことで，健康寿命に向かうことが可能である」との力強い言葉に励まされる人も多いことだろう。ハンディな新書版なので，是非手に取って多くの方たちに読んで頂きたいと思う。

## 事務局だより

**【2025年6月～2025年9月までの会議等】**
- ■2025年5月25日　第3回業務執行理事会
- ■2025年6月22日　第2回理事会
- ■2025年8月9日　第4回業務執行理事会
- ■2025年9月7日　第3回理事会

**【2025年6月～2025年9月までの学術大会・研修・セミナー等】**
- ■2025年6月21日　認定研修Part5
- ■2025年6月22日　認定研修協働師Part5，認定筆記試験
- ■2025年7月19日　基礎医学検定，統合医療カンファレンス
- ■2025年7月20日　ファシア部会
- ■2025年9月20日　学術研究セミナー

**【今後の予定】**
- ■2025年10月25日　災害研修会
- ■2025年11月　第5回業務執行理事会（日時未定）
- ■2025年12月　第4回理事会（日時未定）
- ■2025年12月20日～21日　第29回日本統合医療学会学術大会・総会（岡山）

**編集後記**

●今年の夏は，命を脅かすような猛暑，河川の氾濫や土砂崩れに加えて，観測史上最大の竜巻など，災害に通じる気候変動でした。さらに長期化する戦争や紛争で，アフガンやガザの子供達が深刻な栄養失調で命が危ぶまれ，人類の智と決断による対処が急がれます。29回岡山大会のテーマは，“統合医療の奇知・叡智の共有”です。多彩なプログラム満載，どうぞ奮ってご参加下さい。（川嶋みどり）